

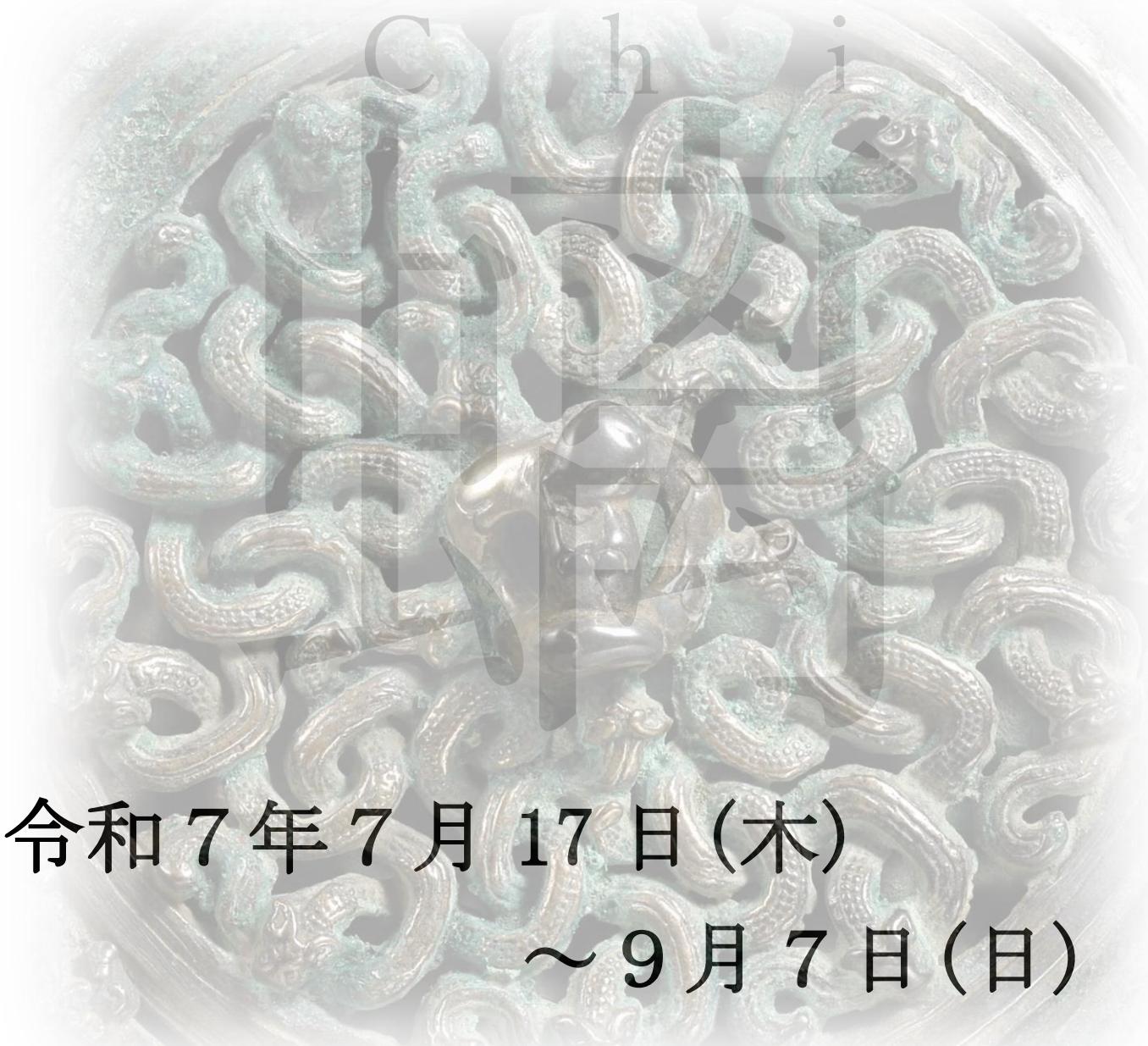
令和7年度 古代鏡展示館夏季スポット展示

おさな

りゅう

もんよう

# 幼い龍の紋様



令和7年7月17日(木)

～9月7日(日)

蟠螭紋透彫鏡 図録No.20 (春秋戦国時代) より

幼い龍「螭」<sup>ち</sup>とされる図像が表された銅鏡を紹介します。

兵庫県立考古博物館 加西分館  
古代鏡展示館  
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

〒679-0106 兵庫県加西市豊倉町飯森 1282-1

(兵庫県立フラワーセンター内)

TEL 0790-47-2212 / FAX 0790-47-2213

H P <https://www.hyogokoukohaku.jp/kodaikyou/>

## ち 螭という名の龍

想像上の生物である龍はさまざまな種類があるといわれ、体の色や角、手足の有無などで分類されています。

今回とりあげる「螭」は、若く幼い黄色をした龍または角のない龍とされています。また「みずち」とも称して水に関わる神聖な生物とする解釈もあります。(『説文解字』卷十四 虫部より)

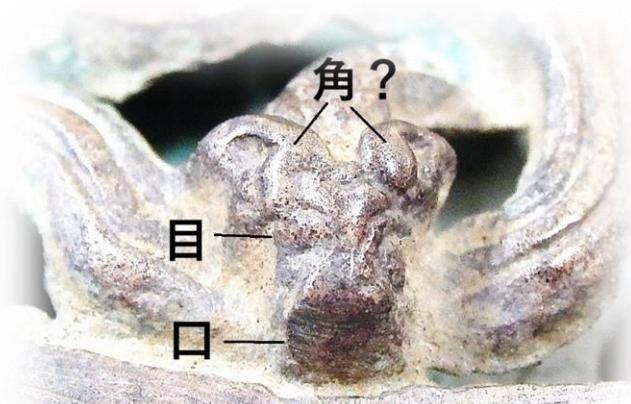
※『説文解字』: 後漢時代の2世紀前半頃に儒学者、文字学者であった許慎が作成したとされる最古の漢字字典



蟠螭紋透彫鏡 (図録 20)

春秋戦国時代 (紀元前5世紀)

径 11.1 cm 重さ 265 g



蟠螭紋透彫鏡の龍の頭部

目、口の他に角らしい表現があります。

## にじゅうたいきょう 二重体鏡

今回展示した鏡は、鏡体の背面中央に透かし彫りの紋様板を填め込んだ鏡です。

鏡体と紋様板にそれぞれ異なる成分比率の青銅を用い、鏡背面の紋様部分が赤銅色に、鏡体の縁部分が銀色になり、色調が異なる装飾効果があったとされます。



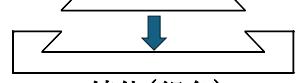
鏡体



紋様板



紋様板(赤銅色)



鏡体(銀色)

二重体鏡のしくみ (参考: 龍紋透彫鏡 図録No.19) ※現在展示していません

二重体鏡模式図